

【今日の説教から】

パウロは獄の中にありました。それでも彼は恐れることなく大胆にピリピの教会の人たちを励まし続けましたが、彼の心の中に一縷の不安も無いわけではなかったと思います。

彼は獄にて、彼の今までの人生を振り返っていたことでしょう。かつてイエス・キリストを知る前の人生と、知らされた後の人生を比較したことでしょう。

「信じているのなぜ」という悲痛な叫びを時に耳にします。信仰をもってから、ぐるりと自分の考え方や在り方が変わることがあります。それによって幸せを感じる時もあれば、あるいは不幸を感じる時もあるかもしれません。

しかしながらパウロは「煩わしいことではない」、いらだたしく腹立たしく、うつとうしい、うんざりすることではなくて、あなたたちにとっての安全だ、護衛だと語ります。

かつては誰もがうらやむような完全な生活でした。何不自由なく、将来も囁きされていました。落ち度のない完璧な存在でした。しかしキリストに出会ってから、今まででは益と思っていたものが、キリストを知る知識の絶大な価値のゆえに家畜のふんやゴミとなったと言っています。

キリストを見出すことが命。彼はキリストの信仰のうちに命があると語ります。そこに復活の力が働くと語ります。苦難が襲い、死のさまと等しくなるような中であっても、キリストを信じ生きる中には復活の力が働くから私は喜ぶことが出来ると彼は語ります。

皆様おはようございます。

10月も真ん中になりました。2か月後にはクリスマスを祝い、年の瀬にも入っていくのですね。

秋晴れの美しい日々、冬に向けてたくさん太陽の温かさを身体に蓄えておきたいと願います。

さてピリピ書を読み進めております。

パウロは獄の中にいました。それは困難の生活であったと思います。先行きが知れぬ不安もあったと思います。しかしそこには彼を親のように慕い敬い、福音のために共に仕えるわが子のようなテモテがいました。そして同労者で戦友である兄弟、窮屈を補ってくれたエパフロデトがいました。しかし彼はそういう貴重な人たちを自分のもとにずっと置いておこうとはせず、そういう大切な人たちを自分のもとからピリピに送って教会を助け励ましたいと願うでした。

1節には最後にとありますが、この時点では4章まであるこの書簡の真ん中の部分であることが興味深いですね。さらに大切なことを熱く語ろうとするパウロの姿がここにはあります。

「主にあって喜びなさい」

この御言葉に対して、ある方はそうだ、そうだ、喜ばしい、うれしい、感謝だと力強く答え、ある方は、いったいどうやってこの状況で喜べというんですかと答えることでしょう。

さきに書いたのと同じことをここで繰り返すが、それは、わたしには煩わしいことではなく、あなたがたには安全なことになる。

喜びなさいということ、それは辛い境遇にある方にとっては煩わしいことなのかもしれません。ギリシャ語の意味を紐解けば、いらだたしく、腹立たしく、うつとうしく、退屈な、うんざりする、面倒な、厄介な、扱いにくいくことなのかもしれません。

宗教を信じる人たち、何でもかんでも前向きにとらえて、深く考えなくて、反省もしないで、ただただ感謝とか、信じるとか、委ねるとか、人任せにして自分の足元を見ていないと、本当に宇宙人みたいな人たち！そんなことを思う人たちもおられるかもしれません。

パウロのかつての人生はきらびやかなものでした。

3:4 もとより、肉の頼みなら、わたしにも無くはない。もし、だれかほかの人が肉を頼みとしていると言うなら、わたしはそれをもっと頼みとしている。

3:5 わたしは八日目に割礼を受けた者、イスラエルの民族に属する者、ベニヤミン族の出身、ヘブル人の中のヘブル人、律法の上ではパリサイ人、

3:6 熱心の点では教会の迫害者、律法の義については落ち度のない者である。

有名な律法学者ガマリエルの高弟で、祭司長からの権限を帯びてダマスコに行き、クリスチヤンたちを捕縛すべく活躍していた勢いのある人でした。将来を嘱望されるホープであったのです。彼は自分を落ち度のない優秀で有能な者と思っていましたが、すべては違っていました。そこでイエス様に出会った時から、彼の人生は一変したのです。

しかしその一変したことにより、彼はまたこの牢獄の中にいることになったのでした。また教会の外からも中からも敵対視され、自らの思いを本当にくみ取ってくれるものはごく僅かでした。寂しさと孤独を全く感じないということはなかったでしょう。しかしこういう今の彼の在り方、キリストを知ってからの彼の人生は、彼にとって「煩わしい」ことだったのでしょうか。いらだたしく、腹立たしく、うつとうしく、退屈な、うんざりする、面倒な、厄介な、扱いにくいものだったのでしょうか。死が隣り合わせで、困難に満ちた彼の現在の人生。獄の中で彼の人生を振り返りながら、いや違う、これは煩わしいものではない。私のこの苦しみはイエス様につながる生き方であり、福音を宣べ伝えた彼らにとってこれは安全であり、これは主のお守りを伝えることなのだと彼は確信するのです。彼のその獄の歩み、

その彼に起こるすべてのことは、「キリストのわざのために命をかけ、死ぬばかりになった」働きであり、「福音に仕えてきた」人生であり、それは「責められるところのない純真な者となり、曲った邪悪な時代のただ中にあって、傷のない神の子となるためである。あなたがたは、いのちの言葉を堅く持って、彼らの間で星のようにこの世に輝いている。」という、そういう人生であると彼は語ります。

3:2 あの犬どもを警戒しなさい。悪い働き人たちを警戒しなさい。肉に割礼の傷をつける人たちを警戒しなさい。

3:3 神の靈によって礼拝をし、キリスト・イエスを誇とし、肉を頼みとしないわたしたちこそ、割礼の者である。

3:7 しかし、わたしにとって益であったこれらのものを、キリストのゆえに損と思うようになった。

3:8 わたしは、更に進んで、わたしの主キリスト・イエスを知る知識の絶大な価値のゆえに、いっさいのものを損と思っている。キリストのゆえに、わたしはすべてを失ったが、それらのものを、ふん土のように思っている。それは、わたしがキリストを得るためであり、

キリストのゆえに一切を失ったという、かつての生き方があります。しかしわたしの主キリスト・イエスを知る知識の絶大な価値があるのです。その絶大な価値の前では一切のものが色あせる、そういう絶大な価値を持つものを私たちは得ています。

かつての私、イエス・キリストに出会う以前のような、自分自身の強さや知恵、学識、立場、権力に頼っていた時の自分の力と、イエス様と出会ってから以降の、私たちの心の中にある平安と力強さと保証を、しばし心静かに思いめぐらせたいと思います。私たちは決して強い人間ではなくて、弱く、知恵も少なく、判断力も並外れてすばらしいものでもありません。これで正しいというような黄金律や処方箋はこの世の中ではなく、皆手探りをして自分の幸せを得ようともがいています。

しかしキリストに出会ってから。私たちの人生は一変したのです。かつてのものはふん土、ごみ、ちり芥と思えるほどに輝かしい、それがキリストにある宝です。

イエス様は神の子でありながら、へりくだられ、私たちのために自らを無にして身代わりの死を遂げ、私たちを贖ってくださいました。

2:6 キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、

2:7 かえって、おのれをむなしうして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。その有様

は人と異ならず、

2:8 おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。

このイエス様がおられれば、このお方を信じていけば、私たちは生きていけるのです。

3:9 律法による自分の義ではなく、キリストを信じる信仰による義、すなわち、信仰に基く神からの義を受けて、キリストのうちに自分を見いだすようになるためである。

3:10 すなわち、キリストとその復活の力とを知り、その苦難にあづかって、その死のさまとひとしくなり、

3:11 なんとかして死人のうちからの復活に達したいのである。

自分のうちに、自分の将来のうちに、自分の計画のうちに神を見出すのではなくて、キリストのうちに自分を見出すのです。

苦痛や苦難、試練があって、死ぬばかりに苦しむことがあるかもしれません。パウロが獄の中にあった時のように。しかしその苦難の中にあっても、彼はキリストのうちに自分を見いだすようになり、すなわち、キリストとその復活の力とを知り、その苦難にあづかって、その死のさまとひとしくなり、その後に、なんとかして死人のうちからの復活に達したい、ここには復活の力が働いていると信じているのです。

ここには復活の力が輝いています。どんなに困難があっても、キリストと共に生きる私たちの生活には復活の力が働いています。これが私たちの望みです。この望みがあるので私たちはどんなことが襲いかきたろうとも喜ぶことが出来るのです。自分の持てる者に従わず、進んでかなぐり捨ててキリストを知る絶大な知識のうちに喜び進む私たちは、復活の力が働いているのです。この望みと喜びを語りたいのです。この道は煩いではなくて保証と安全、平安と喜びです。これが私たちの証しです。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。獄の中にあって自分の人生を振り返るパウロは、どうしてこんなことになったのだろうと思う時もあったことでしょう。しかし彼には確信がありました。「主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさ」に、一切をちり芥

と思えるほどの出会いを得て、死ぬばかりの苦しみと迫害の中にあつたとしても、キリストとその復活の力により、自分も死者の中からの復活に達すると確信しました。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。

アーメン